

外国語学習とコミュニケーション力

Foreign Language Learning and Communication Skills

長谷川 信

Makoto HASEGAWA, Kazuo YOSHIDA

岐阜聖徳学園大学外国語学部

Faculty of Foreign Languages, Gifu Shotoku Gakuen University

Email: m.hasegawa@gifu.shotoku.ac.jp

あらまし：英語力とコミュニケーションスキルは共に重要視されており，社会からの要求も高い．英語を主体的・対話的に学習する中では相手とのコミュニケーションが必須である．ただ，初級レベルの学習者の中には，積極的な英語コミュニケーションに参加することが難しい学生も多い．本稿では，コミュニケーション能力評価のアンケートと継続的に取得した TOEIC IP テストスコアにより，コミュニケーション能力と英語能力の変化を検討する．

キーワード：英語学習，コミュニケーション能力，TOEIC

1. はじめに

文部科学省では「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」の中で，社会の急速なグローバル化により，英語力の充実が重要であり，さらに相手とのコミュニケーションができなければならないとして，英語教育改革が議論されている⁽¹⁾．

また，企業・団体向けの調査による「今後のビジネスパーソンにとって重要な知識やスキル」では，最も多い 82.6%が「英語」，次に 80.7%が「コミュニケーションスキル（聞く・理解する・伝える）」の回答を得ている⁽²⁾．

コミュニケーションは，自分のメッセージを適切に表出し（記号化），他者のメッセージを的確に把握する（解読）ことにより，個人はより活性化し，集団の高い成果も期待される⁽³⁾．英語の学習においても，ディスカッションや能動的な学び合い教え合いを進める上でコミュニケーションスキルは欠かせない能力である．しかし，英語初級クラスの学習者に英語でのコミュニケーションは容易でなく，心理的不安や性格要因なども影響して英語コミュニケーション学習への課題も多い^{(4) (5) (6)}．

そこで，英語初級クラスの学生にはコミュニケーションスキルの獲得から始め，英語コミュニケーションによる英語学習に進むことで，学習効果を高めることが望まれる．本論文では，アンケートにより学生のコミュニケーション能力を評価し，学生の 2 年間の英語能力とその変化について検討した．

2. 調査方法

対象は，地方私立大学外国語学部外国語学科に 2020 年 4 月入学の学生とした．学生は入学時(2020 年 4 月)に TOEIC IP を受験しており，得点別に 8 段階にクラス分けされている．ここでは，8 クラスを順番に 2 クラス 1 組に再編成した組み合わせで集計している．コミュニケーション能力の評価アンケ

ートは 2020 年 12 月に実施した．

コミュニケーション能力の評価アンケートは，平尾⁽⁷⁾のアンケートを用いて，132 名の回答を得た．アンケート調査票では，コミュニケーション能力を 5 つ力（聴く力，観る力，感じる力，質問する力，伝える力）に分解しており，各 5 問の合計 25 問に，あてはまる：2 点，ややあてはまる：1 点，あてはまらない：0 点，無回答：0 点で回答・集計する．ここでは，5 つのコミュニケーション能力の得点合計をその個人の総合得点(50 点満点)として扱う．

学生のほぼ全員が 2021 年 2 月に翌年度のクラス分け試験を受験しており，追跡調査に同意のあった 65 名を対象として TOEIC テストスコアを得た．

表 1 アンケート人数と TOEIC クラス

クラス	回答人数	追跡人数	TOEIC 得点
A 組	35	23	高 ↑ ↓
B 組	36	7	
C 組	34	15	
D 組	28	20	低
合計	132	65	

3. 結果

コミュニケーション能力の評価アンケートの得点は，図 1 に示す分布となり，平均点は 29.4 点となった．各クラスのコミュニケーション能力評価の平均得点を図 2 に示す．最下位のクラスが上位 2 クラスと同様の能力評価を示し，下から 2 番目のクラスが他クラスより低い平均点を得た．

また，「質問する力」においては 4 クラスとも差の無い平均点を得た．

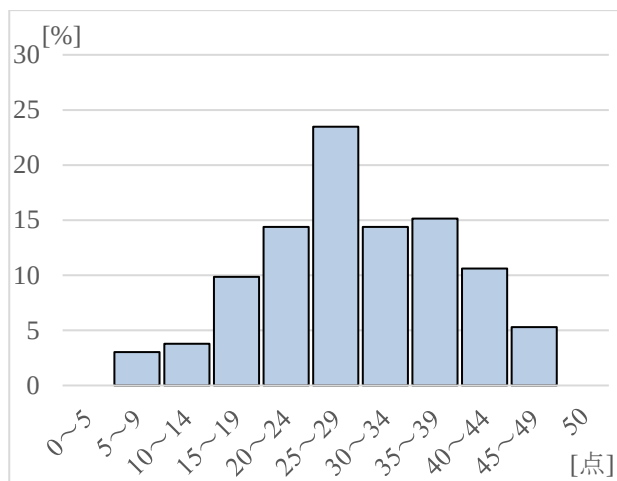


図1 コミュニケーション能力の得点分布(全体)

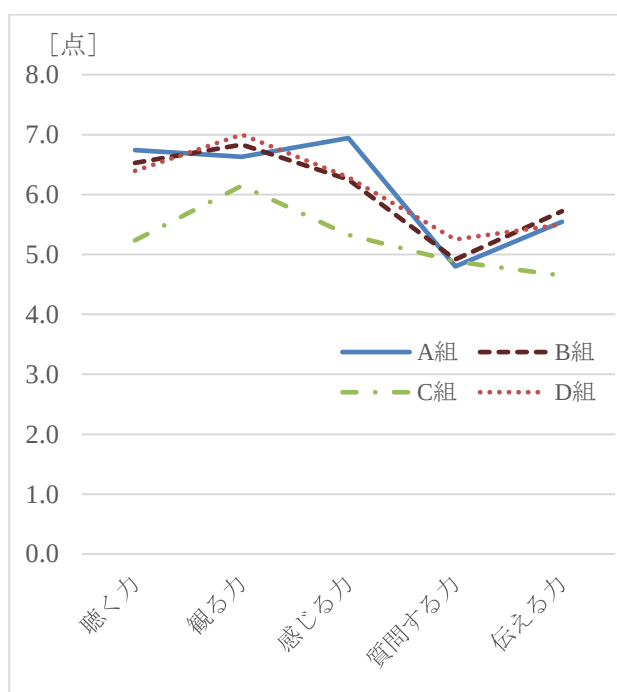


図2 クラス別コミュニケーション能力得点

1年時と2年時のTOEICスコアの分布を図3に、階級ごとの1年時と2年時のTOEICスコアの差を表2に示す。

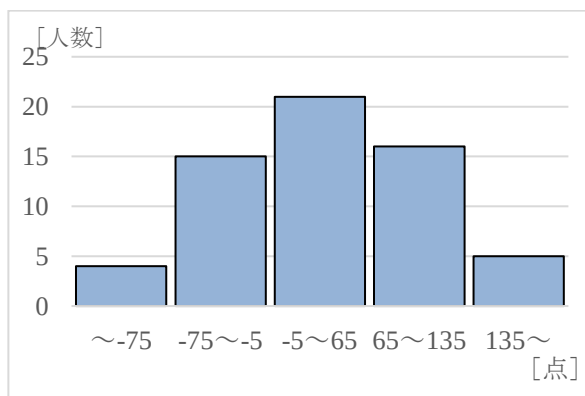


図3 TOEICスコアの伸び分布(全体)

表2 階級別のTOEICスコアの差

階級	コミュ 評価合計	1年時 TOEIC	2年時 TOEIC	差
~-75	34.5	78.5	386.3	-120.6
-75~-5	29.0	72.1	404.7	-25.9
-5~65	29.4	60.4	385.0	43.3
65~135	27.6	62.1	447.8	90.9
135~	37.8	44.0	431.0	202.5

4. 考察

TOEICのスコアが大きく伸びた学生の多くはDクラスであった。これらはいずれもコミュニケーション能力評価で高い得点を得ていた。全体として上位のクラスではコミュニケーション能力評価で高い得点を得ていたが、TOEICスコアがマイナスになる学生も多かった。下位のクラスのコミュニケーション能力評価で高い得点を得ていた学生から、TOEICスコアが大きくプラスになる学生が出た。

5. まとめ

2020年度入学生はコロナ禍で、オンライン授業が多く導入されているため、コミュニケーションを十分に取れない学生生活から始まっており、モチベーションの維持にも苦労したと想像でき、本検証も再検討の必要がある。コミュニケーション能力が高い学生は、コロナ禍の学習で上手に学習に取り組んだために差が出たとも考えられる。

また、今後はコミュニケーションスキルのトレーニングを取り入れ、英語学習の向上も検証したい。

参考文献

- (1) 文部科学省: “今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～”, <https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/1352460.htm>, (2014)
- (2) (財)国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC): “英語活用実態調査 企業・団体 ビジネスパーソン 2019”, (財)国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC) (2019)
- (3) 大坊郁夫: “コミュニケーション・スキルの重要性”, 日本労働研究雑誌, No.546, pp13-22 (2006)
- (4) 大場浩正: “協同学習に基づく英語コミュニケーション活動が英語学習意欲や態度に及ぼす影響: テキストマイニングによる分析”, 上越教育大学研究紀要, Vol.34, pp.177-186 (2015)
- (5) 野口朋香: “英語学習における不安とコミュニケーション能力: 不安軽減のための教室環境づくりへの提言”, 外国語教育メディア学会機関誌, Vol.43, pp.57-76 (2006)
- (6) MacIntyre, P.D., & Charos, C.: “Personality, attitudes, and affects as predictors of second language communication”, Journal of Language and Social Psychology, Vol.15, pp.3-26 (1996)
- (7) 平尾元彦, 重松政徳: “大学生のコミュニケーション能力とキャリア意識”, 大学教育, Vol.4, pp.111-121 (2010)